

「漢詩」の群読

漢文学習の導入と漢文の基礎知識

中学2年生になってはじめての漢文学習のため、1年生のときに学習した内容について簡単に振り返りをしました。漢詩の形式と構成、押韻などの漢詩のきまり、漢文の読み方について説明していきました。特に、漢文の読み方のうち、返り点については、問題を出しながら楽しく学習できるようにしました。

漢詩の内容理解と音読練習

教師が範読した後、教科書に載っている内容をもとに、それぞれの詩の意味を理解する学習を行いました。教科書を読んだだけでは、詩に描かれている情景が思い浮かばない生徒もいます。そこで、説明を加えながら進めていきました。

音読では、書き下し文を大きな声で読むように指示しました。一つの作品が短いため、形態の工夫はせずに、各自の音読を主に行いました。ただし、どの作品も一斉に読む活動は取り入れませんでした。

朗読・群読の発表

グループ編成では、まず一人一人好きな作品を選ばせ、選んだ者同士でグループをつくるようにしました。群読ではなく朗読を希望する生徒には、一人で朗読をさせるようにしました。好きな作品を選ぶ基準は、各個人に任せました。

朗読・群読台本の作成では、選んだ作品をどのように群読するのか、グループで話し合わせ、台本をつくっていきました。古文と違い非常に短いため、強弱をはっきりさせることと、それぞれの句の切れ目を確認するようアドバイスをしました。

朗読・群読の発表では、各グループ、各個人ごとに発表していきました。練習時間は決して多くはありませんでしたが、今までの学習の成果と作品そのものが短いおかげで時間内にすべて発表することができました。

自己評価カードでは、群読についての評価をするとともに、漢文の基礎知識についても、どのくらい定着したのか把握できるようにしました。

漢詩を群読（朗読）した生徒の感想

漢詩なんていうから群読するのはとても難しいだろうと思っていたけれど、実際読むのは書き下し文だから意外に簡単だった。また、どこを強く読むかなどを考えていると、何だか作者の気持ちがわかったような気がした。

「扇的」などの古典では、感情を分かりやすく表現できるのだが、漢詩だとどこを強くしたり弱くしたりなどが、はっきり決められなかった。群読によってみんなとのチームワークも良くなるし、他の人の良いところを見つけることができるから群読は本当にすばらしいと思う。これからもみんなと群読をしたいと思っている。